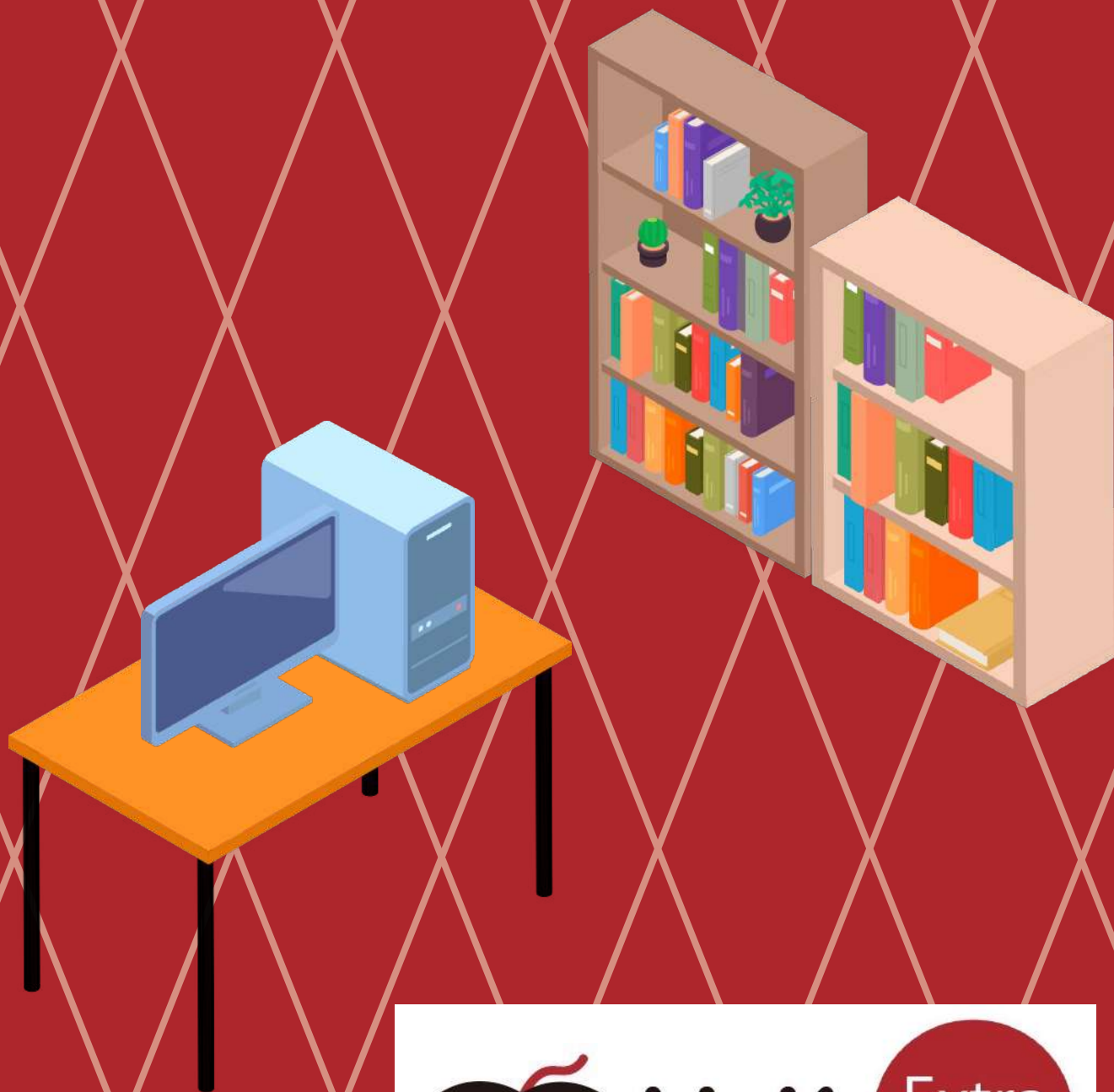


研究室紹介号



milk
知識情報・図書館学類誌

Extra
October, 2022

知識情報・図書館学類誌MILKとは？

M Management

I Information

L Library

K Knowledge

2007年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を

年2回（7月・12月）お届けしています。

今回は研究室紹介号をお送りいたします。

C O N T E N T S

知識科学主専攻

于海 涛 研究室	02
上保 秀夫 研究室	03
照山 絢子 研究室	04
辻 慶太 研究室	05
松原 正樹 研究室	07
叶 少瑜 研究室	08
横山 幹子 研究室	09
松林 麻実子 研究室	10
太田 美奈子 研究室	11

知識情報システム主専攻

鈴木 伸崇 研究室	12
宇陀 則彦・松村 敦 研究室	13
加藤 誠 研究室	15
阪口 哲男 研究室	16
関 洋平 研究室	17
高久 雅生 研究室	18
時井 真紀 研究室	19
金 宣経 研究室	20
森嶋 厚行・伊藤 寛祥 研究室	
（融合知能デザイン研究室）	21
落合 陽一 研究室	23

情報資源経営主専攻

鈴木 佳苗 研究室	25
呑海 沙織 研究室	26
吉田 右子 研究室	27
綿拔 豊昭 研究室	28
小泉 公乃 研究室	29
村井 麻衣子 研究室	30
小野 永貴 研究室	31
高良 幸哉 研究室	32
武田 将季 研究室	33
原 淳之 研究室	34
バー ルィ シェ フ・エドワルド 研究室	35
村田 光司 研究室	36

※執筆を承諾していただいた先生方への掲載となります。学生を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご確認ください。なお本冊子に掲載されております情報は2022年9月時点の情報です。



筑波大学 II 研究室は、情報知能の研究を行っている研究室です。II は Information Intelligence の略です。研究室の詳細についてはホームページをご覧ください：<https://ii-research.github.io>

ゼミの頻度・年間スケジュール

ゼミは週 1 回行います。ゼミの前にはラボノートを準備してくるのがルールです。着手発表会や中間発表会の前後に学内外他研究室との合同ゼミを行い、多様なフィードバックを得ながら研究を進めていきます。

学生の研究テーマ例

- 対話システムにおけるランキング学習の応用
- 健康情報の検索における説明可能なランク学習モデルの探索
- 個人化と多様化の最適なトレードオフに基づいた検索意図の明確化

II 研究室の最近のニュース

- 2022.08: 張さん(修士 2 年、主指導:上保先生、副指導:于先生)が筆頭著者の、ニュース記事の背景リンク (News Background Linking) に関する論文が、CIKM2022 にショートペーパーとして採択された。
- 2022.07: 于先生の研究が筑波大学プレスリリースに掲載された。
- 2021.12: 于先生が筆頭著者の、検索結果多様化に関する論文が、AI 研究のトップカンファレンスである AAAI2022 にフルペーパーとして採択された (採択率 15%=1349/9251 投稿)。
- 2021.02: 村本さん(修士 2 年)が令和 2 年度図書館情報メディア研究科長表彰を獲得した。
- 2020.09: 村本さん(修士 2 年)が CIKM2020 の発表について、ACM SIGIR Student Travel Grant を獲得した。
- 2020.07: 村本さん (修士 2 年) が筆頭著者の、ディープメトリックラーニング (Deep Metric Learning) に関する論文が、CIKM2020 にショートペーパーとして採択された (採択率 26%=103/397 投稿)。

メッセージ

第 3 次人工知能ブームを牽引しているのが機械学習技術の進化だといわれることは皆さんもご存知のことでしょう。本研究室は、機械学習あるいは深層学習について深く理解し、実践し、現実の問題を解決できる力の養成をめざしています。大学時代の成果は、考え方と熱意と能力の 3 つの要素の掛け算で決まると考えています。勉学以外にも積極的に色々なことに挑戦し、多くを経験し学んで欲しいと思います。

旺盛な好奇心と柔軟な思考力を持ち、機械学習を通して現実問題を解決したいと願っている皆さんを幅広く募集します。毎年 10 月に開催するオープンラボに参加することをオススメします。それまで待てない、という方は個別にメールをください。連絡先はホームページにあります。



<https://docs.joholab.com/lab/>

指導教員 上保秀夫 (7D 棟 408 号室)
研究室 情報メディアユニオン 203/401

- Point 1 : 人間と情報のインタラクションを対象とした幅広い研究テーマを募集**
Point 2 : 社会で応用が利く実験法を用いたユーザ研究手法をマスターできる



研究室デジタルライブラリー
(ラボメンバーの研究論文データベース)



研究室フィジカルライブラリー@ユニオン 203
(約 900 冊の蔵書)

研究テーマ一覧

学類生

- ・就職活動の情報化を目的としたタスクオンロジーの構築
- ・事例検索を用いたレファレンス協同データベースへの執筆支援
- ・グルメサイトにおけるレビュー文の特徴語提示による飲食店比較支援
- ・食材の在庫を考慮した民主的主菜決定プロセス

博士前期課程

- ・ An explanation engine for increasing self-awareness on movie preferences
- ・ Semantic modelling of document focus time for information retrieval tasks
- ・ Incorporating Cognitive Relevance into Dense Retrieval for Conversational Search

博士後期課程

- ・ User modeling towards stateful learning to rank
- ・ Conversation-Assisted Document Search

卒業研究スケジュール

2022	※活動は対面とリモートを併用します。
12 月	
2023	
1 月	文献レビューと仮説形成
2 月	
3 月	
4 月	実験環境の構築と倫理審査申請
5 月	BBQ
6 月	予備実験と実験計画の修正
7 月	
8 月	本実験の実施
9 月	
10 月	仮説検証と図表作成
11 月	考察と追加分析
12 月	クリスマスランチ
2024	
1 月	論文執筆と推敲
2 月	
3 月	国際会議への投稿



着手・中間・最終発表会



他研究室との合同研究発表会

研究分野

人間と情報のインタラクション

サーチエンジンに代表される情報検索システムとユーザのインタラクションを、認知・行動・感性の側面から分析し、新しい検索手法の開発に応用する研究を行なっています。近年では特に、スマートスピーカーやチャットボットなど自然言語による会話を主体としたインタラクション空間において、情報検索プロセスを最適化させる手法について取り組んでいます。また、スマートフォンやスマートウォッチなどのウェアラブル端末によって収集される個人ライフログデータへのアクセス手法についても取り組んでおり、子どもや高齢者を対象としたデータリテラシー教育への応用を視野に入れた研究を行なっています。将来的には、IoT 機器が収集・発信する多様な外部データとユーザ固有のライフログデータを有機的に統合した情報圏において、ユーザとシステムが自然言語を介した共主導による情報検索やデータ理解を実現することが目標です。

研究キーワード：人間情報インタラクション、会話検索、フェアネス、ライフログ、ユーザ研究

メンバー構成

学類 4 年生	3 名
大学院生 (博士前期課程)	2 名
大学院生 (博士後期課程)	2 名

今年度受入予定

4-5 名

(知識科学 1~3 名)
(資源経営 0~2 名)

- ・在籍中は、研究用ノート PC を貸与します。
- ・活動拠点は、ユニオン 203 です。

照山研究室

1. 概要

現在のメンバー : 4年生5名(科学3名、資源2名) 院生4名
 研究室 : 情報メディアユニオン3階 学系共同研究スタジオ4(303-1)
 ※叶研との共同研究室
 形式 : 週1回、2限連続でゼミをしています。
 文献の輪読や調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。
 長期休暇中はゼミはありません(各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します)。
 連絡先 : teruyama@slis.tsukuba.ac.jp (照山絢子)



▲研究室の様子です。常駐可で、ソファ、PC等の設備があります。

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「インタビュー」及び「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。
 ※対面での調査の可否については新型コロナウイルスの状況に応じて判断します。

具体的には：

- 特定の場やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する
 (例) 図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど
- コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする
- コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します。

受入人数：最大5名(知識科学専攻0～5名、情報資源経営専攻0～2名)

今年の4年生の研究テーマ

- ・ 茨城県内における酒類市場の課題と展望についての研究
- ・ 日本国内におけるブラック部活の実態に関する研究
- ・ 生きづらい人のためのシェアハウスに関する研究
- ・ 筑波大学の課外活動団体における留学生と日本人学生とのかわりについて
- ・ 父子家庭の抱える問題と支援団体の取り組みについて

3. Q&A

Q1. 卒業研究はどのように進めますか？ 先生に相談しながら進められますか？

A. 基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言をいただきながら進められます。

Q2. 研究テーマはどのようなものがありますか？

A. 過去の学生の研究テーマについては、学類ホームページや希望研究室登録システム HOPE などからご確認ください。
 内容は様々ですが、特定のコミュニティでのフィールドワークという点は共通しています。

Q3. どのような雰囲気の研究室ですか？

A. 和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生間で活発に意見交換が行われ、いろいろな考え方に触れられます。

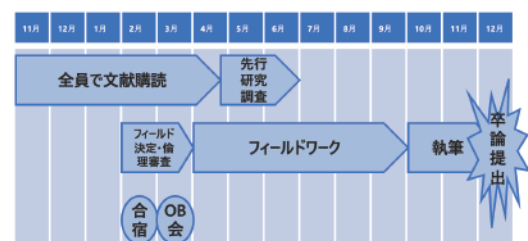
Q4. 1回のゼミの内容を教えてください。

A. 文献の輪読では、1冊の本を数人で分担したり、論文を1本読んだりしてそれぞれでレジュメにまとめ、1回につき2～3人ずつ発表します・研究が始まってからは、調査報告のレジュメを作成して発表することもあります。どちらも質問やコメントをする時間があり、周りの意見を知ることができます。現在は基本的に対面で行われていますが、オンラインでの参加も可能です。

Q5. 年間スケジュールを教えてください。

A. 卒論提出までのスケジュールは右の図の通りです。
 2022年は新型コロナウイルスの影響で合宿・OB会は中止となりました。

▼本棚には、輪読に使用する書籍や、過去の学生が研究に使用した書籍が配架されています。



辻慶太研究室

現在、以下の2つの研究を行って下さる方を募集しています。

(1) 公共図書館の社会的意義の経年的な変化を、因果推定の手法を用いて計量的に明らかにする研究

まず1970年代から現在にかけて、それまで公共図書館を持たなかった市区町村がいつ図書館を新設したかを調べます。そして新設の前と後の国勢調査等の結果から、その市区町村の経済状況や教育水準がどのように変化したかを把握します。さらに図書館を持たないでいつづけた市区町村の中から、上記市区町村に似たものを見つけ、上記変化は図書館の新設による可能性が高いと因果推定の手法で示します。現在、1970年代など昔は図書館の設置が自治体に大きな影響を与えたものの、ネットが普及した2000年代以降は徐々に影響を減らしているといった結果が出ていることを考えています。図書館の効果の変化を追う歴史研究と言えるかもしれません。

(2) 国立国会図書館(及び公共図書館)が所蔵しておらず、大学図書館が所蔵している図書の研究

私は先日、国立国会図書館(及び大学図書館)が所蔵しておらず、公共図書館が所蔵している図書、それらのうち公共図書館が除籍してしまった図書、その結果、国立国会図書館も大学図書館も公共図書館も所蔵しなくなった図書、が相当量存在することを示し、国立国会図書館が所蔵していない図書を公共図書館が除籍する時は、同館に寄贈することを提案しました。現在、対象を公共図書館ではなく大学図書館に変えた同様の調査を考えています。

これまで私は以下のテーマで論文を書いてきました。図書推薦はもう飽きた上に適任な先生がたくさんいらっしゃるので気が進みませんが、それ以外のテーマでしたら指導できます。

- (1) 国立国会図書館が所蔵せず公共図書館が所蔵・除籍している図書(2019年～)
- (2) Wikipedia 閲覧者に対する図書館蔵書推薦システムの開発(2016～19年)
- (3) 図書館の利用量を増加させるラーニング・コモンズの要素の特定(2014～15年)
- (4) 貸出履歴等を用いた機械学習による図書推薦システムの開発(2011～14年)
- (5) 公共図書館のレファレンスサービスとQ&Aサイトの正答率比較(2009～11年)
- (6) 司書資格取得者のその後の人生に関する追跡調査(2006～08年)

研究指導の概要

ゼミは週1回で1人約30分です。研究テーマが決まっていない方には皆でテーマを考え、決まった後は進捗を発表し合うという形を取ります。

受け入れの条件

面談をしたいので、配属を希望される方はメールを下さい。私のアドレスは keita@slis.tsukuba.ac.jp です。

その他

私が発表してきた論文は <http://slis.sakura.ne.jp/gyoseki.html> にあります。よかったら参考にしてください。

松原研究室

メディアとしての身体知に迫る

身体知とは「からだの感覚や生活の実態に根ざして体得されたものごと」です。AIがコモディティ化するこれからの時代は、異なる身体を持つ私たち一人一人にそれぞれの身体知があることを認識し、他者との相互依存性や共通する人間性への気づきを通じて「自分がどう在りたいか」を知ることが肝要です。

身体知の芸術表現はその一つの鍵だと考えます。芸術領域に自身の身体を委ね、内側の感覚に赴くまま表現することは、言葉を介さず身体レベルで意識を変容させる可能性を秘めています。松原研究室ではそのような意識変容の現象を探求し、ボディワークや教育プログラムの開発を通じて社会還元を目指します。



研究分野と3つのテーマ：身体知と芸術表現

アート（芸道）・スポーツ（武道）における暗黙知と型：熟達、間、ノリ、気、忘我

デザイン・生活における感性開拓：居心地、ファッション、ものづくり、接客

環世界の伝達と共有：メタ認知、感覚交換、場づくり、コーチング



3つの研究アプローチ

一人称研究アプローチ：研究者＝研究対象＝自分

行動や内観の質的・量的分析により実践を通じたパフォーマンスや意識の変容をつまびらかにする

二人称研究アプローチ：研究対象＝よく知る間柄（家族、親友、コミュニティ）

関係性を文脈とし、積極的介入を是とするインタビューやフィールド調査

構成論的アプローチ：意識変容の仕組みをつくって理解する

AIによる支援システム、型ことば、あそび、アートセラピー、ボディワークの開発



ゼミの進め方（予定）

- ・週1グループワーク（3・4年次）
- ・週1卒論ゼミ（4年次）

卒論テーマは教員と相談して各自が設定する

こんな人待っています

- ・あらたな学びの場をみんなとつくっていける人
- ・自分自身のフィールドを持ち深く知りたい人
- ・からだを動かすことが好きな人



募集人数：知識科学主専攻3名

オープンラボ・面談についての詳細は卒業研究指導方針ページにて

問い合わせ先：masaki@slis.tsukuba.ac.jp



メディア心理学研究室の紹介

- ・ 教員：叶 少瑜 Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 研究室 教員：7D206 号室 学生：ユニオン 303-1
- ・ ゼミ指導：全体ゼミによる進捗報告と共に、必要に応じて個人指導による指導も行います。ゼミは対面とオンラインで併用します
- ★研究内容：主にメディア心理学のアプローチから、対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響を究明するため、主として量的調査法と実験法を用います。
- ★研究に対する捉え方：料理することと同じだと思っています(笑)。



本研究室では、現在以下のような研究を進めていますが、これらに限定されずに、コミュニケーションとメディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお、本研究室は人を対象にする研究するため、フットワークが軽く、人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【メディア使用と幸福感】

対人信頼感の高い人がより幸せに感じていますよ！それは、対人信頼感の高い人は対面でもオンライン上でも多くの人と交流し、広い社会的ネットワークを構築することができ、様々なサポートが得られるため、心理的幸福感を高めることができるのです。では、どうすれば信頼感を高めることができるのでしょうか。

【Before/With コロナと社会的適応】

「モバイル×ソーシャル時代」時代において、COVID-19の影響で変わった生活様式や対人関係が如何に我々の社会的適応と関係するのかは最近の研究課題として進めています。また、Twitter等が自殺幫助のツールとして使われた事例から、若年層の不適切なメディア使用を防ぐことができるか非常に重要だと考えます。ぜひ一緒に検討しましょう！

【生きやすい社会作り】

日本では10～39歳の死因第1位は自殺であり、また孤独死における自殺者の9割以上が20～50代である。これは「生きにくさ」が主な理由と考えられる。特に近年、メディアの広範囲な普及により、「ネットいじめ」に遭ったり、Twitterで自殺幫助を求めたりする等、不適切なメディア使用が人々を苦しめている。生きやすい社会を作るにはどうすべきか考えましょう！



2016 年度卒論生渋谷さんが
学会発表にて優秀賞受賞



2016 年度卒論生内田さんが
学群長受賞

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

- ① 主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。
たとえば、「ウォルトンのごっこ遊び理論を使い漫才とコントを比較分析する」「ウィットゲンシュタインの言語ゲーム論を使い宮澤賢治作品における猫について考える」「グライスの理論を使い別役実のコントについて考える」
- ② 哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。
たとえば、「哲学の方法論として直観は使えるか」、「何をもって同じ人間と言えるか（人格の同一性）」

現在のゼミの概要

現在のメンバー；4年生2名：研究室（7D517）：募集；3名

例年：長期休暇の例外を除き、週1回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の1週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2時間から3時間です。一人一人が1週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3年生の内にテーマを絞り、4年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。（ゼミには、太田美奈子先生もご参加くださっています。）

現在：週1のペースで上記の内容でゼミを行っていることは同じですが、状況に配慮しZoomでゼミを行っています。（今後対面ゼミに戻るか、しばらくZoomでの開催になるかは状況に依存します。）

2021年度ゼミ生の現時点での研究課題

「『le petit prince』日本語版における翻訳の同一性：グッドマンの記号論を用いた分析」
「ウィットゲンシュタインの独我論：幸福概念からの再考」

卒業後はどうするのか？

いろんな人がいます。大学院に進学した人、大学の図書館員になった人、故郷に帰って市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、アーカイブ関係、SEやテクニカルライティング関係、金融機関や食品関係の会社の総合職、専門学校に行きなおしてマッサージ師という人もいました。なぜか就職したらゼミの先輩がいたという方も多いです。本当にさまざまです。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に付けていただければと思っています。

興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

松林麻実子研究室

指導教員研究室：7D215 ←変わりました！

学生共同研究室：情報メディアユニオン 4F 405-2

構成員(2022年10月1日現在)

知識情報・図書館学類4年次 3名 (知識科学)



2023年度も例年同様

知識科学主専攻 3名, 情報資源経営主専攻 2名を募集しています。

◆指導可能な研究テーマ

人と情報メディアとの関係性について、主に社会情報学的観点から考察することに関心を持っています。言葉を変えれば、個人の情報行動を社会的文脈や情報メディアに焦点を当てた形で考えたいと思っています。基礎理論として使うのは、主として情報行動研究や情報メディア研究における代表的な理論やモデルですが、テーマによっては認知科学や社会心理学、文化論などまで対象を広げることがあります。現在最も強く関心を持っているのは、若年層のニュース消費と情報メディアの関係性についてですが、これに限らず広く情報行動研究や情報メディア研究をやっていきたくと思っていますので、興味がある事柄について話してみてください。なお、本年度のゼミ生は“表現形式に着目した大学生の情報選択”“専門情報をよりわかりやすく伝えるためにどのようなことをしたら良いか”“ライブストリーミングの視聴者が持つ期待”などのテーマに取り組んでいます。研究手法はユーザについて研究する場合には半構造化インタビュー法、メディアについて研究する場合には内容分析・談話分析を基本としますが、必要に応じて実験や質問紙調査などを組み合わせています。

◆ゼミの運営方法

週1回2時間程度の定例ゼミを基本とします。他の仲間が研究活動を進める様子を見て学ぶことも重要だと考えています。状況に応じて個人面談も行いますが、完全なマンツーマン指導を希望する方にはあまり向かないかもしれません。なお、プレゼミ(3年次)では興味がある研究テーマに関わる文献検索と読解をメインに、2~3月頃から卒業研究の具体的なテーマを考え始めて、本ゼミ(4年次)では卒業研究のテーマ一本に絞るというペースで進めていきます。状況が許せば、集中ゼミやゼミ合宿などのイベントを復活させることと国内外の学会への参加などにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。



◆本研究室を希望する場合は必ず面談を受けてください

研究室訪問期間中に必ず面談(対面/オンライン)を受けてください。在室していれば飛び込みでも対応しますが、事前にメールで希望する日時と形式について予約していただくのが確実です。面談で自分の興味がどのようなところにあるかを簡単にでかまいませんので説明できるようにしておいてください。

よく学び、よく遊べ Work Hard, Play Harder

太田美奈子研究室

教員研究室：7D307

共同研究室：7D240

連絡先：minakota@slis.tsukuba.ac.jp

メンバー募集

知識科学主専攻3名、情報資源経営主専攻2名を募集しています。

今年3月に着任いたしました。専門は映像メディア論、メディア社会学、メディア技術史です。ゼミでは、新聞・ラジオ・テレビなどのオールドメディアから現在のメディアに至るまでを幅広く対象とし、メディアが社会をどのように形成し、また社会がどのようにメディアを形成しているのか、地域を出発点として考えていきたいと思います。研究方法としては、番組分析やデータ分析、フィールドワーク・資料収集による実証的調査などがあります。研究室に所属する学生の皆さんには、主体的にコツコツ勉強を積み重ね、自分の力で何かを発見をしてほしいと考えています。

本研究室を希望する場合は、必ず[面談](#)を受けてください。対面・オンラインどちらでも構いません。まずは上記のメールアドレスに、面談希望のメールを送ってください。

研究テーマの一例

◆放送・インターネットのローカリティ

- ・YouTubeにおける茨城県の地域情報のデータ分析・カテゴリ分析
- ・NHK水戸『いば6』の番組分析（言説、映像の内容など）
- ・『月曜から夜ふかし』における地域表象の分析（茨城県はどう扱われているのか？）

◆メディア技術と文化

- ・茨城県における携帯3大キャリアの電波範囲とその範囲が社会に与える影響
- ・茨城県におけるテレビ電波範囲の変遷とテレビの使われ方
- ・KDDI茨城衛星通信センターの設立と電波をめぐる文化
- ・つくばスマートシティの「スマート」さ

※上記の内容に限りません

ゼミの運営方法

基本的に、週に1回2時間程度のゼミを実施します。12月からのプレゼミでは基本的な文献の講読を進めながら、研究テーマの方向性を考えてもらいます。4月からは各自で研究を進め、ゼミでは隔週で進捗状況を発表し合い、皆で議論を重ねます。できれば、ゼミ合宿や全体でのフィールドワークを実施したいと考えています。



鈴木伸崇研究室

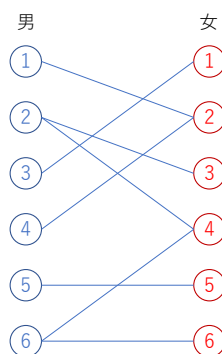
当研究室は、RDF/グラフデータや XML/HTML および CSS などの構造化データ、マッチング理論などについて研究を行っています。老若男女を問わず、意欲のある方のご参加を歓迎いたします。

RDF/グラフデータ 近年、RDF/グラフデータに対して、Shape Expression (ShEx) など記述能力の高い新たなスキーマ言語が提案されています。また、グラフデータにおいて一般的に用いられる問合せとして、パターングラフを用いたものや Property Path などの経路探索を行うものがあります。当研究室では、問合せ式が ShEx に適合するものであるかどうか（充足可能性判定）、問合せ式の包含性判定などを行うアルゴリズムを開発しています。このほか、ShEx のスキーマ進化、大規模なグラフデータの概形・要約を得る（スキーマ抽出）アルゴリズムなどについて研究しています。

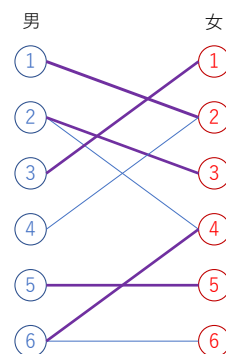
XML/HTML/CSS スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています。構造的に正しい XPath 式は通常複数存在するので、グラフ理論を応用し、ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています。このほか、JSONPath や CSS の充足可能性判定、XML スキーマ進化などについて研究を行っています。

電子書籍(EPUB) 自作の EPUB ファイルには表紙が与えられていないものが数多くあります。しかし、書籍の表紙は選書の重要な手がかりとなるため、書籍の内容に合った表紙を自動的に生成できれば有用であると考えられます。当研究室では、EPUB ファイルのテキストデータを解析して、その印象に合った色およびフォントの推薦やイラストを推薦するシステムなどを開発しています。

マッチング理論 マッチング理論は、様々な好み・希望を持つ人と人、あるいは人と資源との望ましいマッチングを求めるための理論で、男女のマッチングや研修医の配属など様々な領域に使われています。この理論は主に経済学の分野で研究されていますが、本研究室では、これをクラウドソーシングのタスク割当てなど、データ工学分野に応用することを目指して研究を進めています。



マッチしてもよい相手



最大マッチング

その他 上記のほか、NIMS（国立研究開発法人物質・材料

研究機構）と共同で深層学習を用いた結晶の回折画像の解析なども行っています。ご質問があれば鈴木 (nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp) まで遠慮なくお寄せください。

研究室の基本情報：

学生数：院生 4 名 + 学類生 5 名

ゼミの頻度：週 1 回 + α ，日程や形式は相談の上決定（現在はハイブリッド形式です）

研究室：7D204（教員），ユニオン 3F 学系共同研究スタジオ 3（学生）

研究室 Web ページ：<http://nslab2.slis.tsukuba.ac.jp/>

宇陀則彦・松村敦研究室紹介(用語集)

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいます?」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。過去には台風を呼び研究会を中止に追い込んだこともある。

うだまつ研

宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

宇陀・松村研プレゼン心得

発表スライドの作成と発表時に考えなければならないことを五カ条にまとめたもの。その五に「笑いを三つ取ること」とされている点に特徴がある。

うどん

松村先生の好物。つくばにはいいうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。東京出張時は、TOKYO LIGHT BLUE HONGO-3 (旧こくわがた)や丸香に寄るのが楽しみ。

絵本

松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウェルカム!

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オーブンラボ

毎年十月の研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが後輩に直接研究室の説明をする。3年生だけでなく、2年生や1年生も来てかま

わない。コロナ禍ではオンラインで開催された。今年は?

課題図書コーナー

研究室の一角に設けられた書籍スペース。研究室内外の人が「ぜひ読んでほしい本(漫画含む)」を置いて行っている。最初は宇陀先生のイティハーサを置くために作った机上スペースだったが、その後作品が増え続け机を圧迫し始めたので移動した。ハマるかハマらないかは読んでみないとわからない。

環境デザイン大臣

旧そうじ大臣。名称の変更に伴って、掃除の仕切りだけでなく総合的な研究環境のデザインを担当することとなった。2021年度は共同研究室の模様替え、ソファアの買い替えを行なった。

近未来シリーズ

雙峰祭で出展する企画名のこと。グランプリを3度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。2019年に10周年を迎えた。2022年は「近未来

びぶりおぱーく」で久しぶりの対面企画に挑む。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭で、この1週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。

情報学学位プログラムリーダー

情報の混沌を極める大学院の教育プログラム「情報学学位プログラム」を背負って立つ者に与えられる称号。現在は宇陀先生がこの称号を与えられている。何かある度に挟まれる小話にはファンが多いとか。

真の終電

つくば・柏の本当の終電のこと。松村先生が「通勤7年目の秋、パパ友の一言でそれまでの終電の概念が覆され「真の終電」が生まれた。真の終電が発動されるのは、真の修羅場だけ。

スクラップボックス(Scrapbox)

研究室運営に関する共有情報、各

自のゼミ資料、研究会参加記録など、なんでも突っ込んでおくところ。適度なリンク構造で情報が芋づる式に出てくるため、研究室の外部脳として機能している。

ストレンジス・ファインダー

自分の強み発見をしてくれる診断テスト。34の強みから上位5位が分かる。ゼミ配属後にD付きの本が配られ、自分で診断する。研究室で強みを発揮して活動してもらいたいという期待がある。なお、「指令性」を持つ人は、まだ現れていない。ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は1時間もおからない。松村研は5時間におよぶことがある。必要に応じて個別ゼミを行うことがある。発表前は連日練習すること。

知識情報概論

2020年度の授業アンケートで全学2位を獲得した伝説の講義。Rさん、Mさん、Uさんという人間に間違われるほどの人工知能が人気の秘密である。

堤先生

心優しき人文社会系の先生。困っている学生に救いの手をさしのべ、発狂するオタクを生暖かい目で見守ってくれる。今やうだまつには欠かせない存在である。冬のコミケに行く与会えるらしい。

なおちゃんBOT @naotyana_bot

なおちゃんの発言をまとめたbot。常に爆笑を巻き起こす彼女の発言を残しておこうという動きから実際に作成された。例「やせたーい（とんかつを食べながら）」。日々爆笑発言が繰り返されるため、在籍時は登録が追いつかなかった。

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと卒論／修論に関わらない研究活動が目的。これまで、高松、函館、津、青森、熊本、広島、金沢、倉敷、米沢を訪れた。現地集合、ホテルは各自確保で一度も「合宿」であったことはない。2019年度に中止して以来、コロナの影響もあって途切れたままである。

7D240

我が共同研究室。長谷川研とも共同。ソファア、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻ってきて夜を明かす人が続出する。共用プリンタがあるので、出力を取りにきた先生が、しばしば怪訝な目で見ながら見て去っていく。

パパコレ

「パパこれ買ってー」の略。研究に必要な文献などを先生に頼むためのStackチャンネルの名前。買ってくれるのは先生なので、つまり先生はパパな訳だが、指導教員をパパと表すという何とも業の深い命名である。別にリアルで先生をパパと呼んでいるわけではない。

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4人にLサイズ1枚で計算するとちょうどよい。

プチ合宿

夏休みの1週間ほど、教室を借りて、朝から晩まで集中して研究を行う会。みんなで出前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。コロナ禍には、ユニオン1階講義室の広大な空間を少人数で独占するという贅沢を味わうと同時に出前館のお得意様になった。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

夢会

研究室配属後の初ゼミで行う夢を語る会。模造紙に自分の夢を描いて発表する。過去には、「機械の体が欲しい」のような尖った夢から「孫3人と幸せに暮らしたい」とほんわかした夢までさまざま語られてきた。彼らは夢にどのくらい近づいたろうか？



情報検索のアルゴリズムを研究しています。4期生募集中。

Web サイト : <http://kasys.slis.tsukuba.ac.jp/>
 E-mail : kasys-contact-ml@klis.tsukuba.ac.jp
 今年度受入人数 : システム 3 科学 0 ~ 2
 今年度在籍者数 : 学類生 5 博士前期 13 博士後期 3

教員部屋 : 7D 308
 学生部屋 : ユニオン 2F 共同研究会議室 2
 週間予定 : ゼミ 75 分 個別ミーティング (隔週) 60 分
 チームミーティング 75 分 論文読み会 75 分

主な研究分野

本研究室では**情報検索分野**の下記の研究分野を主な対象としています: 検索モデルとランキング、ランキング学習、検索意図推定、知識ベース構築、知識ベース応用、Web マイニング、情報抽出、検索ユーザ行動分析、検索ユーザモデリング

主な研究トピック

- 本研究室の主な研究トピックは**知識獲得システム**です:
- 多くのリソースから知識を自律的に獲得するシステムを構築する (単純な例: テキストから因果関係を抽出する)
 - 構造化された知識を人が検索するためのシステムを構築する (単純な例: 人物検索、商品検索)

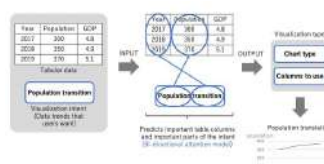
過去の研究テーマ



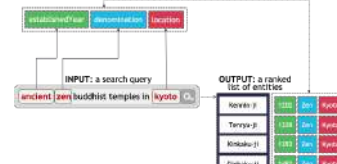
2つのモノを足して2で割る検索:
 「宇多田ヒカル」と「X JAPAN」を足して2で割ったような音楽を検索



統計データを検索: 「2017 年の刑法犯の認知件数は『91 万件』」という数値の根拠となる統計データを検索



データを視覚化: 表形式のデータに対して自動的に適切な視覚化方法を推定



修飾語でモノを検索: 「歴史ある」寺や「広い」ホテルなど、修飾語を考慮して検索

年間スケジュール (予定)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント																
	研究室仮配属		プロジェクト研究発表会		着手発表会					中間発表会			卒論発表会			DEIM 参加

輪講 (週 150 分)

教科書輪講とプログラミング輪講があります。教科書は情報検索の基礎 (1 月 ~ 2 月)、言語処理のための機械学習入門 (3 月 ~ 4 月)、しくみがわかる深層学習 (5 月 ~ 6 月) を使う予定です。プログラミング輪講では Python を用いる予定です。

ゼミ (週 75 分)

自分の近況などを紹介する時間です。

個別ミーティング (隔週 60 分)

基本的に 1 対 1 で研究の内容について議論する時間です。

チームミーティング (週 75 分)

3 チームに分かれてチームごとにミーティングします。

論文読み会 (週 75 分)

1 時間程度で論文を読み、残り時間で議論する会です。

プロジェクト研究発表会

基礎的な研究プロジェクトに参加し、その成果を内輪で発表してもらいます。

DEIM 参加

国内で開催される学会。基本的にみんな出して発表します。

阪口研究室とは？

～快適な情報の共有や伝達を求めて～

どんなことをやるのか？

- 情報の共有や伝達を支える技術を念頭に
 - 情報の共有や伝達を快適に行う (大目標)
 - そのために様々なアプリケーションシステム (アプリ) が構築されている
 - 「快適」には「安全」も含まれる (結果として「安心」も得られる)
- 快適なアプリの構築を！ (構築作業も快適にしたい！)
 - 最近ではLinked (Open) Data の利活用を中心にしてますが、それに限りません
 - 例えば、一企業に牛耳られるような心配がない、Internet本来の自立分散型の情報共有や意思伝達ツールの新たな姿を考えてみるとか？
- 今使っているシステムは快適ですか？
 - そうでないなら改善を目指そう！ (あくまでも卒研の一環として)
- 最近ではWebAssemblyにも少し注目しています (かつての言語屋魂:-)

最近の主だったテーマ例 (他研究室と共同のものもあり)

- Linked (Open) Data の整備・拡充への Crowdsourcing 利用
- Linked (Open) Data の開発・接続・検索 (発見) の支援
- マイクロタスク型Crowdsourcingプラットフォームの開発
(これまでのテーマ例は下記の3年生向けWebページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！

電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑:-)

・ゼミなど: 週一全体ミーティングが通例(+個別指導等)

氏名: 阪口 哲男

Webページ: <https://www.sakalab.org/>

(3年生向けページはここからリンクします)

Eメール: saka あつと slis.tsukuba.ac.jp

研究室: 7D312 (春日エリア7D棟3階)

共同研究室: 学系共同研究スタジオ3 (情報メディアユニオン棟3階)



コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐ**コミュニケーションの支援**や、ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援について研究を進めています。

教員室：7D-213 学生研究室：7D-140

Web： <http://cu.slis.tsukuba.ac.jp>

教員：1名 学生：13名 OB・OG：33名

自分の興味を見つける努力をしてください。

企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。

・日本システム技術株式会社との共同研究を開始（2022年～、<https://www.jast.jp/news/15159/>）

・NII 共同研究に採択（2022年、<https://www.nii.ac.jp/research/upload/2022NIIkobogatakodokenkyusaitakuitiran.pdf>）

・国際規格開発賞を受賞（2020年9月1日、2019年12月17日）

for ISO/IEC 30145-3 (Smart City Engineering Framework) & ISO/IEC 30146 (Smart City ICT Indicators)

・おたがいハマトークに出演（2020年9月16日）

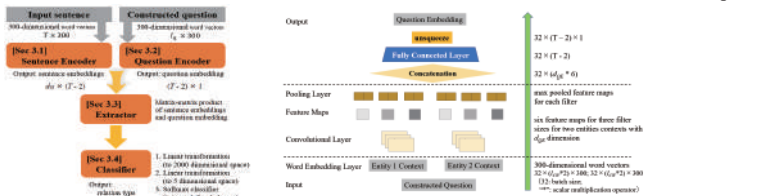


ソーシャル情報アクセス

ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して、クリエイターを検索したり既存のサービスとは異なるランキング手法を提供

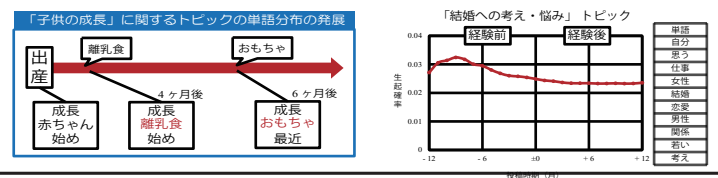
質問エンコーダを利用した CNN に基づく関係推定

（国際ジャーナル IJDL 採録、国際会議 ICADL 2020 Best Paper Award Runner-up）



ライフイベントに依存したトピック推移の分析

（情報処理学会論文誌 TOD 採録、ACM SIGIR 2017 採録、DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞、平成 29 年度 茗溪会賞、平成 29 年度 図書館情報メディア研究科長表彰）



音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索（人工知能学会論文誌 採録）

投稿型料理レシピサイト上で重複するレシピの判別

（人工知能学会誌、第 14 回 W2 研究会学生優秀ポスター発表賞、

CEA 2017 採録、W12 研究会 第 6 回ステージ発表採択、DEIM2016 優秀インタラクティブ賞）

人気レシピの内容的特徴に着目した実用的レシピの判別

（CEA 2014 採録、Best Paper Award）

閲覧者による印象を考慮したイラスト投稿者の検索

（ACM SIGIR 2013 採録）

スマートソーシャルシティ

ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり、オープンデータを活用することで行政サービスの活性化を支援

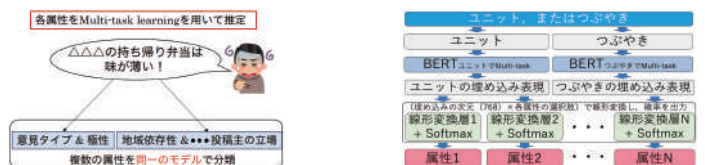
市民のツイートをを用いた分散表現に基づく地名に対する市民の関心の傾向の可視化

（日本知能情報ファジィ学会誌 採録、平成 29 年度 情報学群長表彰）



複数の属性の関連性に着目した市民意見の抽出

（言語処理学会論文誌 採録、ARG 第 16 回 W12 研究会 優秀研究賞受賞、令和 2 年度 情報学群長表彰）



地域特有の単語埋め込み表現を用いたイベント参加地域の推定（令和元年度 情報学群長表彰）

市民のツイートを行政課題ごとに分類するための関連語の抽出（平成 29 年度 総代・情報学群長表彰）

外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦（観光情報学会誌 採録、

W12 研究会 第 4 回ステージ発表 採択、平成 27 年度 図書館情報メディア研究科長表彰）

Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定（ICADL 2016 採録、平成 27 年度 情報学群長表彰）

地域ユーザに着目したロコミツイート収集手法の提案（DEIM2016 学生プレゼンテーション賞）

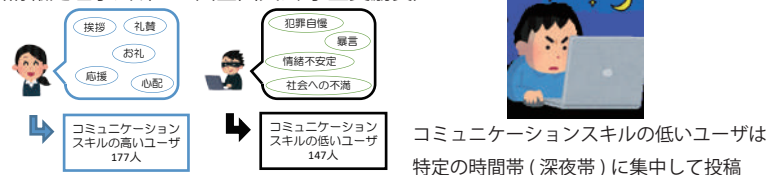
パブリックコメント投稿者を支援するための行政文書の分割（平成 26 年度 情報学群長表彰）

半教師ありトピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定（情報処理学会論文誌 TOD 採録、IFAT ヤングリサーチャー優秀賞、DBS 研究会学生奨励賞、平成 25 年度図書館情報メディア研究科長表彰）

ソーシャルコミュニケーション支援

ソーシャルメディアにおける、より使いやすいコミュニケーションのあり方の提案
新たなコミュニケーションサービスの提供

投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析
（情報処理学会 第 79 回全国大会 学生奨励賞）



単語と文字の埋め込みの結合を利用したネットスラングの抽出
（ICADL 2021 採録）



感情推定に基づく顔文字推薦

（言語処理学会論文誌 採録、情報処理学会 山下記念研究賞、日本語学論説資料 掲載）

宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言いかえ

（情報処理学会 第 78 回全国大会 学生奨励賞）

読者の完成を発信・共有するためのソーシャル付箋

（電子情報通信学会論文誌 採録、平成 24 年度 情報学群長表彰）

Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出

（平成 25 年度 情報学群長表彰）

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

- ・ 教員: 高久 雅生 (たかく まさお)
- ・ 研究室 (居室) 教員: 7D208室, 学生: 7D221共同研究室
- ・ 学生数 (2022年度): 15名 (学類4年次: 6名, 研究生: 1名, 修士: 5名, 博士: 3名)
- ・ ゼミ指導: 研究室全体ゼミによる進捗報告 (隔週) と, 個人ごとの指導 (毎週) を行い, 研究を進めます。
※コロナウイルス感染症の影響により, 2020年度からは全面的にオンライン (Zoom) で指導しています。
- ✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の真ん中を扱う研究室です。
- ✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に, システムの構築や新しいアイデア, 実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。
- ✓ こんなひとにお奨め
 - 情報探索の利用者を支援する方法論や利用者の行動そのものに興味がある!
 - 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい!
 - ウェブ上で流通する便利なデータセットの公開提供や発見などに貢献したい!
- ✓ 知識情報システム主専攻 (主) と情報資源経営主専攻 (副) から学生を受け入れています。

情報探索行動

情報探索行動とは, ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し, それらにかかわる要因をモデル化し, 探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では, ウェブ環境下での記録機器, ソフトウェア等の発達により, より精緻に情報探索の過程を計測し, 情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では, 探索過程の記録や, 探索記録からの知識発見, 探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発, 特に, 探索タスクや情報ニーズが探索行動にどのように影響しているか解明することを目指して研究しています。

電子図書館

電子図書館は, 既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完, 刷新, 強化し, 新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定, 情報推薦, 可視化, マイニング, 利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり, 図書館の現場のニーズに基づくサービス仕様の分析や精緻化といった幅広い役割が求められています。

高久研究室では特に, 検索機能の向上, Web APIマッシュアップによる新機能の提案, デジタルアーカイブズの利活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは, 対象文書群を適切に索引付けし, 利用者の情報要求に基づき, ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析, 文書構造の同定, 文書の索引付け, 文書ランキング, 検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ, ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では, 対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や, 新しい検索手法, 検索インタフェース, 検索評価手法の開発を目指しています。

情報組織化

コンテンツやコレクション群をいかに効果的に整理・記述し, 分類体系や語彙体系を整備するかは図書館情報学が古くから扱ってきた重要な課題であると同時に, ウェブ時代における情報組織化をどのように行って, 共有するかは重要な課題となっています。

高久研究室では, 書誌情報やその他の領域の情報をLinked Dataの方法論により共有する手法や効果的にLinked Dataを構築したり, Linked Dataの情報を探る手法などの開発を通じて, 研究領域に貢献することを目指しています。

過去の卒業論文テーマの例

- ・ Instagramの写真を利用した飲食店検索支援システムの構築
- ・ チーム開発のためのソースコード閲覧履歴可視化システム
- ・ 日本のテレビ放送における番組のシリーズを同定する手法の開発
- ・ 化粧品品の購買支援のためのSNS情報の抽出提示手法の研究
- ・ 新書本を用いた学問発見支援システムの構築
- ・ 主題情報に基づく文献探索支援の研究ー検索結果の可視化と主題ファセットを用いた手法ー



連絡先: 高久 雅生

- ・ Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ Twitter: @tmasao

時井研究室

情報の**可視化**をテーマに研究をおこなっています

知識の集約、伝達をテーマに

2016-2021 年度 AR + 絵画鑑賞, 知識集約, 身近な科学,
探究的学習, Kinect + 浮世絵, オノマトペ, 調理 + 論理的思考,
数学的リテラシー、可視化支援

スポーツ + 可視化支援、データリテラシー + 地理情報、統計学 + AR

2022 年度 ジャーナリズム + AR、ランニング + データ解析、
データリテラシー + 批判的思考

データから可視化し、傾向をみる
データとスポーツの知識と結び付け
自身のフォームを振り返る



関連する情報へと興味を広げ、
情報を体系的に眺める



データを眺めて、可視化と解析を繰り返す
プロセスからデータリテラシーを習得する

年間スケジュール

10 月 オープンラボ

12-2 月 基礎勉強、研究調査、
ミニシステム開発

3 月 研究会等で研究調査

4 月～ システム開発、実験、論文執筆

3 月 学会発表

どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。
などなど、デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、
テーマを具体化していきます。



システム開発中



図情図書館と共に展示

人間・情報・技術研究室 Human・Information・Technology Laboratory

- ・ 指導教員：金 宣経 (きむ せんきょう)
- ・ 教員部屋：7D 315
- ・ 連絡先：kimsun@slis.tsukuba.ac.jp

新しい研究室です。

人間・情報・技術のインタラクションに興味があったら、
1期生として冒険してみませんか？

研究分野

下記の研究分野を主な対象としています。

ヒューマンインターフェース、学習支援システム、
ヒューマン・ロボットインタラクション、認知科学

現在の主な研究テーマ

下記の研究分野を主な対象としています。様々な場面での情報の取り込み又は学習について研究しています。現在の応用分野はオンライン学習とeスポーツ、ウェブブラウジングです。

人間を中心としたテーマ

1. 自宅で映像授業やオンライン授業を受けている人々の注意力はどう変化するか？
2. ゲームを通じて日常生活のスキルを身につけるのが可能か？
3. 現在のウェブ上の情報の出し方は自閉症の人にとって使いやすいか？

システムを中心としたテーマ

1. 学習効果を高めるチャットボットの設計は？
2. eスポーツプレイヤーのパフォーマンスを高めるインターフェースは？
3. 自閉症を持つ人の学習・情報習得のため、どのようなシステムのサポートが必要か？

主な研究手法

1. 人を対象にした実験
2. 生理学的測定
(ウェアラブルセンサーやアイトラッカーを使います。)
3. ビデオ分析
4. アンケート

受入人数

知識情報システム主専攻 3名

知識科学主専攻 2名

ゼミの流れ

12月：個人面談

1－2 月：卒研テーマ決め

- ✓ 週1回 (75分) ゼミ1段階
(興味のある論文と研究法について話し合う)

3－5 月：着手発表の準備

- ✓ 週1回 (45分) ゼミ2段階
(自分の研究目的や背景について紹介)

6 月：着手発表と振り返り

7－9 月：中間発表の準備

- ✓ 週1回 (45分) ゼミ3段階
(自分の研究データ収集と分析について紹介)
- ✓ 8月の夏休みを含む

10月：中間発表と振り返り

11－12月：卒研執筆

- ✓ 週1回 進行状況の共有

1月：論文提出・研究発表会

個別ミーティング

週1回 30分～60分

1対1で研究や近況について話し合います。

論文読み会

週1回 30分

最新の論文について議論します。

他にも楽しいイベントは
一緒に作って行きましょう！



5

2017 年に立ち上げた Human-in-the-loop Big Data & AI の研究を進める研究室です。
2020 年からデータマイニングを専門とする新任の伊藤寛祥先生がメンバーに加わりま
した。

防災、健康、教育、環境、飢餓、貧困・・・人類が直面する困難な問題を解決するために、人々と計算機の知を結集して立ち向かわなければなりません。本研究室では、人類が史上初めて手に入れた、数十億規模の人々とAIのネットワークを活用し、これらの協力により創出される「融合知能」をデザインする科学技術確立します。研究のための研究を行うのではなく、世界的な研究成果を出しながら、成果を活用したプラットフォームを自ら開発し、様々な領域の専門家と協力して、これまで諦めていた問題の解決とよりよい社会を実現することを目指します。

本研究室は、鈴木伸崇研、若林研、松原研とも共同で研究を行っています。

研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

Human-in-the-loop(ヒューマンインザループ)とは機械が得意な作業と人間が得意な作業を組み合わせ問題解決する考え方です。今後の社会をデザインする重要なキーワードとして注目を集めています。本研究室では、ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています。

自然災害発生後の被害状況を即座に把握する

世界遺産・被災地の記録を未来に残す

障害者と健常者の共生社会を作る

みんなの力で真実を発見する

AI と群衆が教え学び合う

皆の力を合わせてアプリを作る

市民の意見を集約して市政に貢献する

漫画がより楽しめるようコンテンツを活用する

クラウドソーシング・ヒューマンコンピューテーション

ビッグデータ・データサイエンス

ソーシャルネットワーク分析

データマイニング

ソフトウェア工学

プログラミング言語設計

データベース

人工知能・機械学習

人間工学・認知心理学

HCI・ヒューマンインタフェース



クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」や「フィールド実践」を研究することが特長です。研究テーマの決め方はプロジェクトを引き継ぐ、新たに与えられる、自ら提案するなど様々です。

主な活動

ゼミ週3時間(研究,文献調査,開発),個別ミーティング週1回,勉強会随時,合宿,国内・海外学会発表

過去の主な進路

大学院進学(情報学,情報理工学,ヒューマニクス) 修士修了後の就職先: AWS Japan, ウェザーニューズ, NTT 研究所, NTT データ, NTT ドコモ, キヤノン, クックパッド, コーエーテクモゲームス, 高校教諭, 新日鉄住金, SLC, ソフトバンク, DMM, 日立製作所, 富士通, みずほ情報総研, Yahoo! JAPAN, 楽天, リクルート

詳細情報

説明会は10月7日18:15(×創対象), 10月18日18:15-19:15, 10月19日16:00-17:00を予定しています。

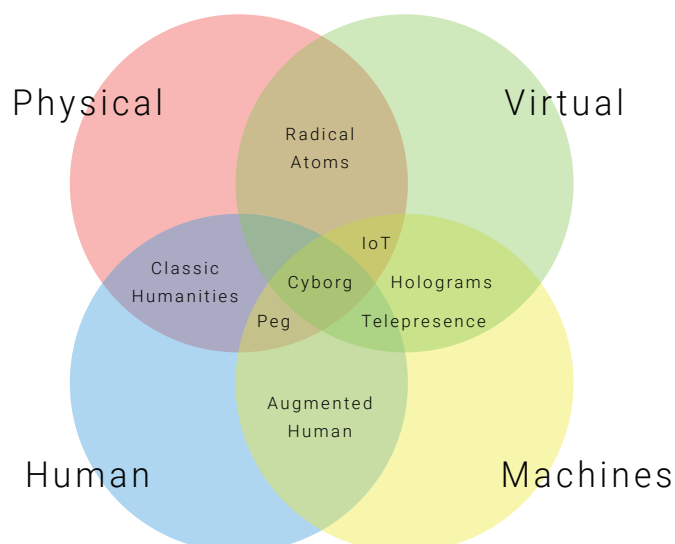
詳細は研究室 Web サイトなどに掲載します。募集人数: 創成学類3名, 知識学類5名

面談問い合わせ先: fusioncomplab-staff@ml.cc.tsukuba.ac.jp(森嶋・伊藤)

研究室ホームページ: <https://fusioncomplab.org>



FusionCompLab (Morishima & Ito Lab.)



About

筑波大デジタルネイチャーグループ（落合陽一研究室）では、計算機基盤の上に成り立つ現代社会以後のメディア研究のために、単なる表示器上のやりとりを超えて、HCI・CG・CGH・触覚・VR・機械制御・デジタルファブリケーションなどの融合領域の研究を行っています。人の性質をモデル化し、数値解析とシミュレーションによって情報通信の問題として定義することで、人と計算機の共存する生態系を目指しています。そのために空間での光や音とのインタラクションや、触覚応用など、レーザーや強力超音波、磁場制御などを用いた研究から、人間の行動制御に関する研究にいたるまで、弊ラボの掲げるデジタルネイチャーに向かって研究しています。

Members

大学院生・学部研究生の他に、筑波大学の先導的体験者体験プログラムにより所属している学部生などがいます。2023年度は、知識からの卒業研究配属は2名、創成からの卒業研究配属は6名を定員とする予定です。

年間を通じて幾つかのプロジェクトを主体的に実施しプロジェクトを変えながら、研究室のメンバーが目指す世界観を研究と展示で見せていきます。1プロジェクトだけでは方向性が見えにくいのですが、複数のプロジェクトをこなしていくことで、見せたい方向性や自分に向いていることがわかっていくことが多いようです。

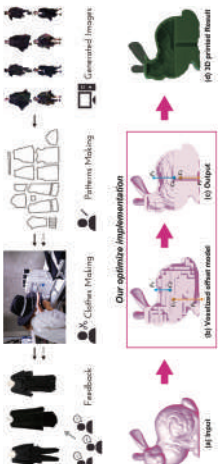
教員からの指導は、1対1の個別指導ではなく1対多の指導を行っています。本・インターネットによる情報伝達、議事録・Slack等を活用し同じことを伝達する無駄を防ぐ、論文添削は内容の戦略・一部戦術チェックなどを行い、あとは学生同士のチェックが重要となっています。

デジタルネイチャー推進戦略研究基盤
教員：落合陽一、伏見龍樹（図書館情報メディア系）

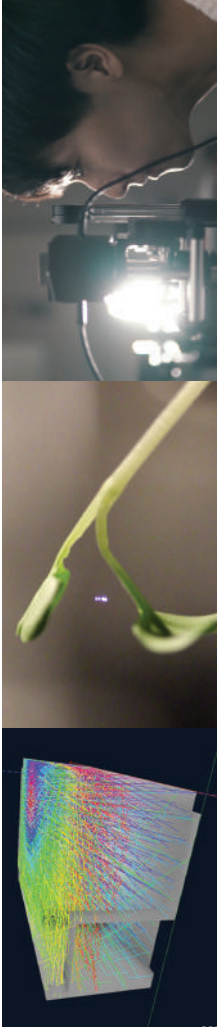
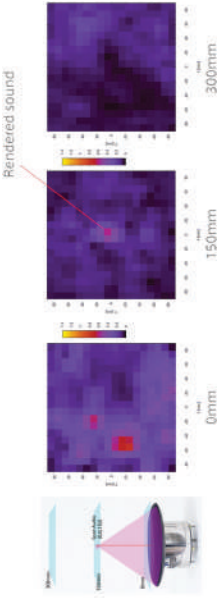
配属・見学などのお問い合わせの前に、WEBページ「CONTACT」に掲載の「よくある質問 / FAQ」を必ずご確認ください。
<https://digitalnature.slis.tsukuba.ac.jp/>
wizard@slis.tsukuba.ac.jp

Research Fields

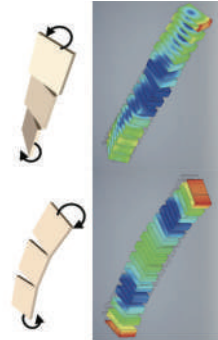
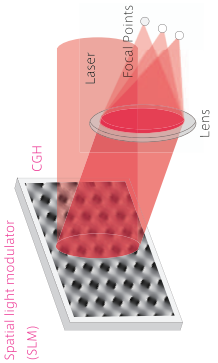
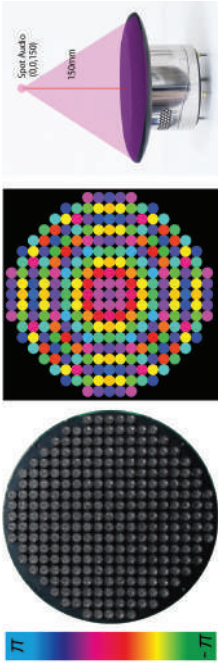
Application
Driven



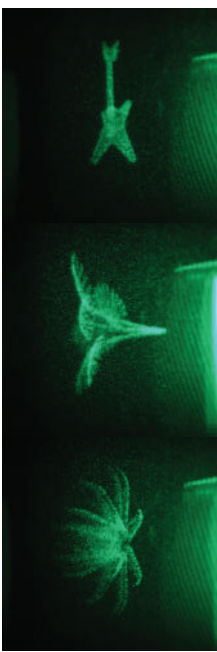
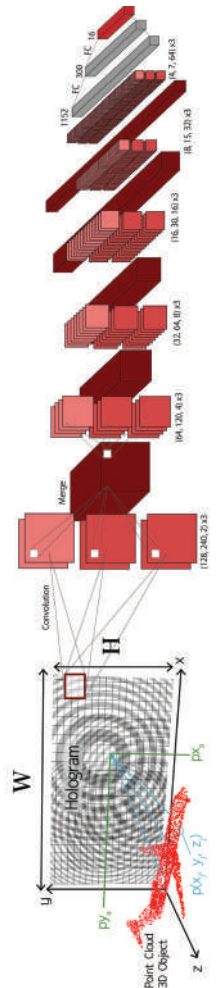
Hardware



Software



Algorithm



メディア・インタラクション研究室（鈴木佳苗研究室）

今日、私たちはメディアを通じて映像やコミュニケーションを楽しんだり、多くの有用な情報を得たりしています。一方で、有害な映像コンテンツや情報に触れたり、トラブルに合う機会が増えたりするなどの危険もあります。本研究室では、個人のメディア利用、図書館や学校などのさまざまなメディア環境の現状と課題、メディア利用やメディア環境が及ぼす影響などを検討しています。



2022 年度研究室学生：学類生 1 名（情報資源経営主専攻）・大学院生 6 名



研究テーマ：主な研究テーマ、これまでの卒業研究のテーマの例を紹介します。

主な研究テーマ	卒業研究のテーマの例
児童図書館サービスの現状と課題	「乳幼児が絵本に触れ合う場としての公共図書館の環境づくりに関する検討」
学校や地域における子どもと読書にかかわる取り組みの実践と評価	「学校図書館における電子書籍貸出サービスの現状と課題」
メディア教育や情報教育の実践と評価	「高等学校の理科分野授業におけるデジタル教材の学習効果の検討」
（広告など）メディアメッセージの分析	「健康食品における CM 広告の特徴」
読書やインターネットなどのメディア利用の影響	「小学生の読書体験が学習意欲に及ぼす影響」
学習過程の解明	「学習ログを活用した大学生の学習過程への影響因と学習効果を高める方法の検討」



研究キーワード：メディア、メディア教育、学校図書館、公共図書館、学校、調べ学習、探究学習、リテラシー、社会性 など



主な研究の方法：調査、実験、内容分析など

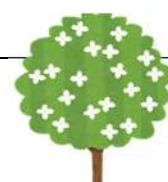


主な研究対象者：幼児、小学生から大学生、保護者、学校関係者、図書館関係者など



研究室 Q & A

Q1. ゼミについて
A. 週に 1 回ほどのペースでゼミがあります。ゼミの雰囲気はなごやかです。
Q2. 研究のスケジュールについて
A. 12 月からしばらくの間は、自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学びます。6 月の着手発表会までに目的と方法をできるだけ考えて、その後、調査や実験を始めます。11 月頃から論文の執筆開始です。
Q3. 研究室について
A. 研究室（小野研究室と鈴木佳苗研究室合同の共同研究室）にはメンバーが使用できる PC があり、インターネットやプリンタも使えます。本棚には、調査や実験、分析を行うための文献などがあります。
Q4. 卒業研究について
A. 2022 年度の卒業研究のテーマは、「高校における部活動の体験と大学生の個人的特性」です。
A. オンラインや質問紙による調査への協力を依頼し、研究を進めています。



Donkai Laboratory 吞海研究室

指導教員 : 吞海沙織

学生研究室 : 情報メディアユニオン 402 室

E-mail : donkai@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野

図書館における高齢者サービスおよび認知症支援サービス
知識情報基盤・大学図書館に関わる研究

関連するキーワード : 超高齢社会と図書館, 認知症と図書館,
大学図書館, 知識情報基盤, 学習支援

2022 年度の卒業論文テーマ

- ・ 公共図書館における回想法を用いた認知症支援
- ・ 図書館と生涯学習活動団体の関わり
- ・ コロナ禍における移動図書館の役割
- ・ 高齢者が主体となる情報発信活動とコミュニティ

ゼミ概要

週 1 回 1~2 時間程度

オンライン/対面

各自の研究成果を報告しあい、
議論や意見交換を行います。

年間スケジュール (例)

12 月	研究室仮配属
1 月	研究のための基礎学習
2 月 - 4 月	研究計画、調査計画
5 月	着手発表会準備
6 月	着手発表会
7 月 - 8 月	調査準備
9 月 - 10 月	調査
10 月	中間発表会
11 月 - 12 月	調査分析、論文執筆
1 月	卒論提出、最終発表

研究室紹介 吉田右子（研究室410）
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



現在の研究関心

- 社会的に孤立した人びと・不利な立場に置かれた人びと：移民・難民・先住民、LGBTQ、経済的困窮者、非識字者
- 研究方法：資料調査・フィールドワーク
- 研究課題：文化的格差の解消にかかわる公共図書館の可能性



卒業研究の領域と研究方法

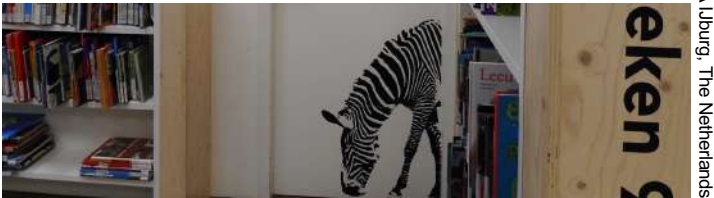
- (1) 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究
- (2) 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究



これまでの卒業研究

詳しくは卒業研究指導方針のリストをどうぞ！

- セクシュアル・マイノリティの子どもを対象としたアメリカの公共図書館サービス
- スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービスについて
- オーストラリアにおける先住民民族に対する公共図書館サービス
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- アイヌ文化継承活動の現状と課題



研究室配属から卒業論文提出まで

12月	研究方法について学びます
1月	研究テーマについていろいろな角度から検討して研究のフレームを固めていきます
2月	先行研究の調査【ゼミ内発表会】
3月	研究テーマの確定
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月・8月	本調査
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

綿拔豊昭研究室

研究分野について

- ・日本の文化に関することで、時期は明治ぐらいまで。

- ・来年度の卒業研究のテーマは

「雑誌『北國文化』の掲載作品の分析と研究」「狂句の歳時記の作成と研究」

「ある昭和の東海道中紀行についての研究」

のいずれかを選択した人を優先しますが、テーマとゼミ希望者の数によっては、

他のテーマでも可です。

学生の人数

- ・毎年度、三人を上限としています。

年間スケジュール, 卒業論文執筆の流れ等

- ・ゼミ生一人ひとり個別に対応しています。

- ・上述の「来年度の卒業テーマ」に応じて年間スケジュールをたてます。

ゼミの頻度

- ・だいたい週に一回です。

- ・飲食に留意しなければならないので、合宿、飲み会等、団体ゼミ活動はしません。



小泉公乃研究室



図書館が知識・情報やそのサービスをどのように市民に対して提供するのか、またそれらを通し地域社会における様々な課題をどのように解決していくのかについて、(1)政府（公共政策）、(2)図書館（経営）、(3)市民（利用者）を切り口に、マネジメントあるいはガバナンスという観点から研究を進めています。また最近では、児童書・ライトノベル・小説の分析や、様々な形態の読書など、文芸と地域コミュニティに関する研究もおこなっています。

◇ 2021 年度卒業生の研究テーマはこちら！

『日本における移動図書館の機能の変遷と現代的な役割』
『現代日本の公共図書館における場の性質と役割』
『北欧と日本の公共図書館におけるイベントを通じた市民へのエンパワメント』
『ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスからみる子どもの貧困対策』
『持続的なマイクロ・ライブラリー運営のための要素』

◇ 学生の人数

博士後期課程：8 人（うち社会人 5 人）

博士前期課程：6 人（うち社会人 1 人）

学類生（4 年生）：7 人（うち留学中 1 人）

◇ 卒業生の進路

公共図書館の司書、地方公務員、大学職員、大学院進学など

◇ 研究室の環境

Mac、モニター、ソファ、冷蔵庫、電子レンジ、ポットなど

…気になる方は 7D220 までぜひ遊びにきてくださいね ♪

（ゼミ生が案内してくれますので、koizumi@slis まで連絡をしてください。）

小泉ゼミ一同、皆さんの訪問をお待ちしています！

著作権法の研究室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週1回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻

指導教員：村井麻衣子

募集人数：3名

現在のメンバー（2022年度）：学類生1名＋大学院生1名
（研究生や大学院生がいる場合は合同で行います）

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を法的に規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上の論点や制度を取り上げてもかまいません。

例えば・・・2022年度のゼミ生の研究テーマ

- ・図書館と著作権法：令和3年著作権法改正における図書館関係の権利制限規定の改正を踏まえ、入手困難資料のアクセス容易化について検討予定
- ・音楽教室事件：現在、控訴審判決まで出されている音楽教室事件の検討

ゼミの進め方・全体スケジュール

ゼミでは、著作権法の基礎を確認してから（目安：12月～3月）、各自のテーマに関連する資料の内容の発表してもらったり（目安：春AB頃まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらおう（目安：春C以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。9～10月頃までに論文の初稿を完成させることを目指し、11月～12月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージです。

関連科目

「知的財産概論」、「知的財産権論A」、「情報社会と法制度」、「情報法」などの法律系科目が関連します。研究室を希望される場合は、「知的財産概論」、「知的財産権論A」を履修していることが望ましいです。特に、「知的財産権論A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

詳しくは・・・卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、メールで連絡してください。



研究室概要

図書館情報メディア系 小野 永貴（おの はるき）

- ・ 専門分野： 図書館情報学，学校図書館，情報教育等
- ・ 教員研究室： 7D114室
- ・ 教員連絡先： milkya@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 学生研究室： 来年度は7D130室で鈴木佳苗研と共同研究の予定
- ・ ゼミ形態： 原則週1回（長期休暇中などは長めのゼミを不定期実施）

本研究室が扱う研究領域

人々は学習するとき、本や論文など、何らかのメディアを利用しながら学びます。特に中高生の場合、教科書や副読本などの一般市場に流通しない書物や、先生が黒板に書いた板書なども、学習時に触れるメディアとなります。今日では、デジタル教材や授業の録画映像といった電子媒体も、もちろん含まれるでしょう。

このように多様化する学習メディアを、学習者はどのように利用するのでしょうか。そして、人々が円滑に学習メディアを利用できるようにし、学習効果を高めるためには、どのような情報環境があると良いのでしょうか。

このようなテーマを様々な手法で追究するのが、本研究室の目標です。

キーワード

学校図書館
書架のブラウジング
資料探索能力
探究学習支援
情報科教育
情報リテラシー教育

今年度のメンバー募集

本研究室は、2022年度に新設されたばかりの新しい研究室です。

今回は第2期の募集となります。

現在は人数も少ない出来たての小規模研究室ですが、新しい研究室の活性化へ前向きに関わって下さる皆様に歓迎します。

<募集人数> 情報資源経営主専攻：定員3名 / 知識情報システム主専攻：0～2名

特に今年度は、以下の関連テーマに関心をもつ方を、重点的に募集します。

◆ 360度画像による“バーチャル図書館”は、どのような利用効果があるか？

◆ 中高生の遠隔学習のために、“板書”を効果的に録画・配信するには？

上記以外の持ち込みテーマであっても、指導可能な場合があります。詳細は、学類Webサイト上に掲載される「卒業研究指導方針」を必ずご覧のうえ、事前面談にお越しくください。



高良研究室

○ゼミの概要

高良研究室は情報法分野を研究する研究室です。

情報法領域は、情報通信技術と法に関するICT法の領域、メディアと法に関する領域、情報保護や情報の利活用と法に関する領域です。

情報法に関する領域であれば、幅広く研究可能です。

○募集人数

3人（最大5人）

○ゼミの頻度

ゼミは原則週1回です（プレゼミ・卒研ゼミ共通）。現在、日時は固定せず、ゼミ生と日程調整を毎回行っています。少人数の場合は柔軟に対応します。

○これまでの卒論テーマ

高良研究室は2021年度から始まった新しい研究室です。これまでのゼミ生の研究テーマは、名誉毀損、情報公開法、ヘイトスピーチ、児童ポルノ規制などです。参考までに、大学院の研究生には、ネットワーク犯罪の研究を志望している人もいます。

○卒論指導方針

プレゼミでは法律文献に慣れてもらうために、法律論文の輪読を行います。

4月からは、各自文献調査を行ってもらい、毎回ゼミで進捗状況の確認と指導を行います。希望に応じて個別指導を行います。

○指導教員：高良幸哉

2020年1月から筑波大学勤務

研究テーマ：刑事法（サイバー犯罪・児童の権利保護など）、情報法（情報通信技術と法、情報保護など）

○連絡方法

高良にアポイントを取る必要がある方は、takara@slis.tsukuba.ac.jp までご連絡ください。

1. 研究分野

- ・ 公共図書館における高齢者サービス, ユニバーサルサービス
- ・ 高齢者に向けたユニバーサルな情報環境の実現に関する研究
- ・ 情報と人間（行動や認知, 心理）の関係に関する研究

ー 社会調査や実験などによる定量分析から明らかにします

関連するキーワード

図書館, ユニバーサルサービス, 高齢者, 情報行動, 学習
認知, 心理, 定量分析

2. ゼミ概要

- ・ 週1回 1-2時間程度（曜・時限は相談の上決定します）
- ・ オンライン（Teams, Zoom）と対面の併用
- ・ 進捗の報告とディスカッション（それぞれの人が毎週）
- ・ 月1回程度 呑海研究室との合同ゼミを実施
- ・ ゼミ合宿は行いません

3. 年間スケジュール（目標）

12月ー1月	研究のための基礎学習, 先行研究の調査
2月ー4月	研究テーマ決定, 研究計画, 調査（実験）計画
5月	着手発表会準備
6月	着手発表会
7月ー8月	調査（実験）準備
9月ー10月	調査（実験）
10月	中間発表会
11月ー12月	分析, 論文執筆
1月	論文提出, 最終発表会

4. 過去の卒業論文のテーマ

新しくできた研究室なので, 過去の卒業生はいません

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、多様化するメディアについて、子どもや若者や大人の読者・視聴者による受容の特徴を踏まえつつ、図書館などでのその活用のあり方を考える学生がよく集まっています。例えば、読書離れや OECD（経済協力開発機構）加盟国で実施される PISA の読解力調査の結果が注目される日本や海外における読書活動推進、イギリスを中心に世界の図書館で広まりつつあるビブリオセラピー（子どもや若者などが悩みの緩和に役立てられるように選択した絵本や本を図書館で提供する活動）。また、心理学のモデリング理論を踏まえた日本アニメ作品のオーディエンスによる視聴の特徴、ビデオゲームにおける物語がユーザに与える効果など、リテラシー的研究をするゼミ生もいます。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるのですか？

研究方法は各自のテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めています。質的・量的な調査のどちらも考えられます。テキストの語彙を量的に分析したり、インタビュー調査をしたりすることもあります。エビデンス（根拠となる事実やデータなど）に基づいた研究を意識しながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究では、そうならないように気をつける必要があります。研究方法が多様であるせいか、高校のときの文系／理系を問わず、どちらの学生も研究室に所属しています。

研究指導は教員の研究室やオンラインで、週 1 回のペースで行っています。個別指導のほかにも、みんなで集まって研究報告をしたり、一緒になって考えることもあります。論文はもちろん各自で執筆しますが、学類の研究発表会の前には、みんなでプレゼンの練習をしたりもします。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあります。ドイツの図書館に興味のある学生もいましたらどうぞ相談して下さい。今年度の秋学期からは

ドイツの留学生が原研究室に来る予定です。

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。ここ数年は新型コロナウイルス感染予防への対応から難しいのですが、例年は、みんなでゼミ旅行（軽井沢、那須高原、湯西川温泉など）に行き、さらにパーベキューや花見などをする年もあります。海外から研究者や学生が研究室に来るときには、英語でのコミュニケーションにも挑戦してもらいます。ところで《進学・就職》ですが、大学院（博士前期課程 情報学学位プログラム）への進学の他、国立大学法人職員・都道府県市区町村の公務員（公立図書館や学校図書館の司書・学校司書も多くいます）、独立行政法人、映像・音楽エンタテインメント関係企業、IT 企業への就職など、先輩たちは全国で仕事をしています。なお、昨年度のゼミ生は 5 名でした。



原研究室ゼミ生の卒業式の様子（2021 年 3 月）

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、ゼミで良いテーマに洗練させていきますので、まずは研究室を訪問して相談して下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

― 気兼ねなく発言できる雰囲気 ―

私たちの研究室は週に 1 回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4 年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまっているので、週 1 でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やっておかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりのないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けたのはこの研究室だったからだと自分でも過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3 年生の 3 月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がり、実現したものです。6 月には他の研究室の友達も誘ってパーベキューをしました。たし、研究室のメンバーの誕生日にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思っています。

（研究室 卒業生 武田未来さん）

アーカイブズ学研究室

指導教員プロフィール

バーリィシェフ、エドワルド (Eduard BARYSHEV)

7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

学生研究室 情報メディアユニオン 407-1 号室（白井先生と共同）

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録、②上記の記録が保存されている機関および施設

研究領域

- ・ アーカイブズ学理論全般
- ・ 各国の記録管理と文書館（記憶継承施設）
- ・ 各国のアーカイブズ文化とアーキビスト教育
- ・ 保存記録の管理・利用に関わる諸問題
- ・ 記録媒体と情報処理
- ・ 歴史記録（アーカイブズ）と史料論
- ・ アーカイブズの政治的・社会的な機能性

卒業論文例

- ・ 現代ドイツにおけるアーキビストの養成制度
- ・ 文書館における展示活動に関する研究
- ・ 文書館建築の認識に関する研究－イタリア共和国を事例に－
- ・ カザフスタンの文書館制度
- ・ 震災伝承施設の機能と課題－アーカイブズとの関係を中心に－
- ・ 災害に関する動画資料の収集と利活用



指導方式

- 隔週、ゼミ方式の授業（2 時間程度）を行う他、個別に相談できる時間を設けます。

記録遺産に関心をもち、過去、現在および未来におけるドキュメントの在り方について学び、国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!



保存記録（アーカイブズ）の管理および利用の様子（英国国立公文書館、ロンドン）

情報資源経営主専攻 村田研究室

指導教員： 村田 光司
教員部屋： 7D404
学生研究室： ユニオン4階407-1
今年度学生数： 4年生3名
E-mail: kmurata@slis.tsukuba.ac.jp

2021年度から活動している研究室です。

研究キーワード:アーカイブズ、過去の記憶と情報、歴史学、西洋史、
デジタルアーカイブ、文化遺産、古文書・写本、古天文学

受け入れ可能なテーマ(例)

- ・古い時代の記憶(神話や伝承など)・情報・モノ・アーカイブズ・図書館・写本などの形成・管理・利用(過去・現在・未来)
- ・過去の文字資料からのデータ抽出・分析など
- ・有形・無形の文化遺産の資源化(デジタルアーカイブなど)
- ・海外のアーカイブズ

今年度卒論のテーマ:

災害伝承碑の活用実態、まちかど博物館、法帖
デジタルアーカイブの活用



教員の研究テーマ

- ・ヨーロッパ古代・中世のアーカイブズ・古文書
写本・貨幣など歴史資料研究
 - ・過去の天文記録を用いた地球環境史の研究
 - ・古代・中世のモノ資料(建築物、貨幣など)の研究
資源化(デジタルアーカイブ)
- (<https://researchmap.jp/kojimurat>)

ゼミについて

- ・全体ゼミ月3回、個人面談月1+回
- ・3年のうちはアーカイブズ関連の基礎的文献
を読みます
- ・4年生は研究の進捗発表と議論
- ・たまにどこかに出掛けます
(今年は手漉き和紙体験に行きました)
- ・ゼミ内容やイベントは学生の希望に応じて決
まります

年間スケジュール(仮)

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
仮配属 文献購読・発表			研究 テーマ 決定		着手発 表		施設体験など			中間発 表	卒論発 表		



「知識情報・図書館学類誌MILK」Web公開中。
過去のバックナンバーもご覧いただけます。
<https://milk.klis.tsukuba.ac.jp/>
ご意見・ご感想お待ちしております！

Credit

知識情報・図書館学類 MILK 研究室紹介号

●発行者 呑海沙織（知識情報・図書館学類長）

●発行日 2022年10月3日

●編集部 関根颯香 鐵見咲希 川畑優人 小松史乃
田中大陸 大橋桃香 岸岡あや

●協力 知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方